

教育福祉常任委員会次第

日時；令和3年5月24日（月）

午前11時30分～

場所；第1委員会室

1. 開 会

2. 議 題 閉会中の継続調査（所管事務調査）について
「二宮町の資源を生かした子どもの育成環境」

3. 閉 会

教育福祉常任委員会 閉会中の継続調査についての経過報告

テーマ：二宮町の資源を生かした子どもの育成環境について」

1. 勉強会の開催日

- 3月26日（金） 各委員関心事から具体的なテーマに絞りこんだ。
- 4月9日（金） 各自から不登校対応についてのイメージ事例を集めて検討
- 4月26日（月） 町の現在の対応状況について資料入手して意見交換
浜須賀中事前勉強
- 4月30日（金） 任意の議員による浜須賀中視察
- 5月10日（月） 浜須賀中訪問後の意見交換

2. 経過報告概要の確認

① 小項目の設定をした

3月議会後、それまでに各委員の関心事を洗い出して同テーマについて再度検討したところ、すべてを同時進行でやるのは幅が広すぎるため、また委員全員で取り組めるよう、まず小項目をひとつに絞って進めることに致しました。小項目としては「不登校あるいは不登校の前段階における子どもたちの居場所づくり」です。デリケートな部分があるものの、学校に行きづらい生活をしている本人に対し、人との関わりや社会的自立に向けた育成環境整備のため、児童生徒の時期について委員会ではまずは調査とブレインストーミングを重ね、時間的区切りをつけて、現状の町の仕組みの改善や、これまでにない仕組みを設計できるのか等、研究していくことに繋げていきます。

② 調査内容事項と意見

○現在の町の不登校対応について意見交換をした。

- ・対応内容について、誰もが見えるようにすること。（例えば要覧の公開）
- ・マニュアルもあれば理想的。
- ・現在のやまびこの場所から移動したほうがもっと通いやすい場所になる。

○「不登校・子どもの居場所づくり」のキーワードで各委員から持ち寄った資料で意見交換。

- ・二宮町で検討できる資源としては、子どものための拠点づくりとして図書館、学校内、東大果樹園などが考えられないだろうか。
- ・公民連携のスキルアップも必要ではないか。
- ・町内の検証はこれから進めて行く。

○茅ヶ崎市立浜須賀中学校へ、議員有志としての視察と委員会内で情報共有及び意見交換。

- ・この教室のために加配があるわけではなく先生方のやりくりによって成り立っているとすると、システムの存続がどこまで成立するのか先を見据える必要もあるだろう。
- ・支援員の配置や加配状況によっては町でも実現可能ではないのか。それにしても授業を行うという点では小学校で同じ仕組みということにはならないだろう。

- ・適切な人材の確保というのはネックだろう。
- ・浜須賀中では寛ぎスペースを設けるなど明るい教室づくりになっており、また、生徒の話を十分に聞くカウンセラーの人材を充てたりして本人のゴール設定を重視する姿勢を大事にしている。保護者の相談も増え学校へ行ける雰囲気を作れている。在籍教室に足が向かずとも学校へ行く場所があるというだけでも意味のあることではないか。
- ・出席日数や成績の取り扱いなど、義務教育の責務を果たすことも考えたい。
- ・浜須賀中の取り組みは、不登校の子どもすべてに対応するものではないが、二宮町でも支援のひとつとして学校に行ける場所づくりについて考えたい。町の別室登校や学校ごとの相談対応や頻度も知りたい。
- ・浜須賀中では地域と連携した学習支援をしている。二宮町でもやっているか。
- ・浜須賀中では支援級のとなりを意識して教室を設置している。二宮町での支援級と不登校の関係についての考えはあるのか。
- ・今後まだ保護者の意見を聴く機会も必要だ。

3. 今後の調査

保護者との意見交換、不登校特例校について知ること、町内フリースクールの視察、などの予定。